

音楽

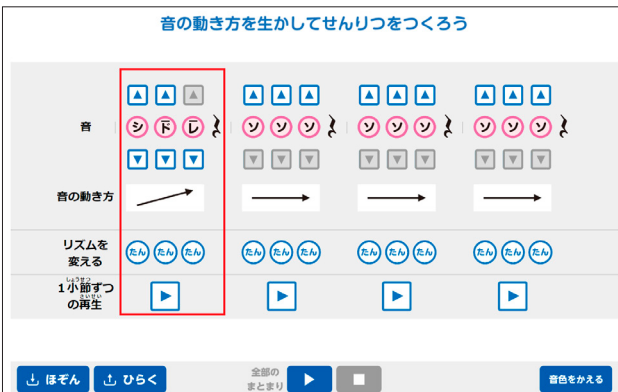
「指導者用デジタル教材」を用いた授業展開例

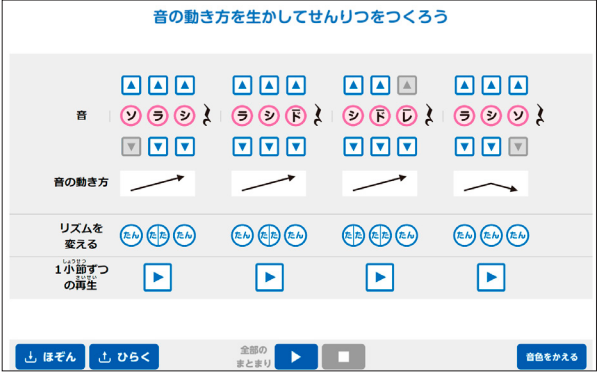
小学校 第4学年 音楽科 学習指導案

横浜市立都田小学校
校長 今村 行道

題材名	音の動き方を生かしてせんりつをつくろう（2時間）
題材のねらい	旋律の動き方やフレーズのつなげ方の特徴に気づきながら、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもち、まとまりを意識した音楽をつくる。
本時のねらい	フレーズの特徴に気づきながら、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもち、デジタル教材を活用して4小節の旋律をつくる。（第2時）
指導時期	7月

本時（第2時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 前時につくった4拍分のフレーズを発表する。 - 最初の数人は一人一人発表するが、途中からペアで拍に合わせてつなげて演奏するよう促す。	 前時でメモした「学習者用デジタル教材」の楽譜を見ながら演奏する。 
展開	4人組になり、各自がつくったフレーズをつなげて4小節の旋律をつくる。 - 拍に合わせてつなげて演奏する。 - 演奏する順番を変えたり、つくった旋律を変えたりして、まとまりのある旋律になるよう、何度も試す。	4小節のまとまりのある旋律がつくれたら、各自で「学習者用デジタル教材」の楽譜にメモしておく。 

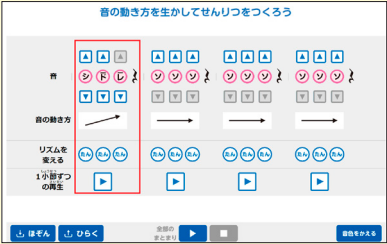
	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	時間がまだある場合は、つくった旋律をもとに、各自でリズムを変えたり、旋律を工夫したりする。	各自がメモした「学習者用デジタル教材」の楽譜上で、リズムや旋律に工夫を加え、音を再生して旋律を確認し、それをもとに演奏する。 
まとめ	グループごとに、つくった旋律を発表する。 各旋律の特徴について、意見交換する。	教師が「指導者用デジタル教材」にメモし、これを大型提示装置に映すか、児童に配信するなどして、旋律の特徴について共有する。

指導者用デジタル教材

活用の実際

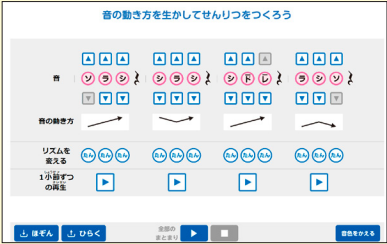
第2時の導入場面

前時では、一人一人がリコーダーで4拍分のフレーズをつくる際、「学習者用デジタル教材」の楽譜をメモ代わりに使用し、それを活用して演奏する。本時では、楽譜に示される音の動き方を参考にしながら、リコーダーを演奏する。



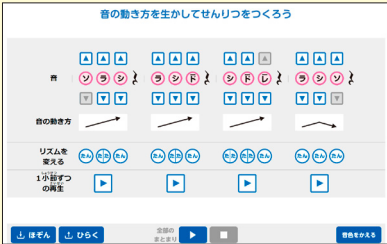
第2時の展開場面

展開場面では、4人組のグループで4小節のまとまりのある旋律がつくれたら、各自で「学習者用デジタル教材」の楽譜にメモしておく。これにより、グループでつくった旋律をすべて自分で演奏してみたいという児童も出てくると考えられる。



第2時の展開場面

発展的な学習として、各自がメモした「学習者用デジタル教材」の楽譜上で、リズムを細かくしたり、旋律に工夫を加えたりする。自ら再生して旋律の特徴を確認することにより、思いや意図に合った旋律をつくることができ、自らの表現につなげることができると考えられる。



指導者用デジタル教材

活用の効果

旋律づくりにおいて児童のハードルとなるのは、旋律楽器の演奏技能と、演奏イメージの共有である。本教材における「指導者用デジタル教材」に用意されている旋律作成ツールは、簡単な操作で旋律メモを作成できるほか、旋律メモを再生することで、つくった旋律の演奏イメージをつかむことができる特徴を持っている。これは、つくった旋律を楽器で演奏する際に大変有効なツールとなる。

また、発展的な学習として本ツールを活用することにより、各自が演奏技能にとらわれることなく、4小節の旋律づくりに取り組むことができるようになる。児童の試行錯誤の幅を広げ、思いや意図に合った旋律づくりの一助となることが期待される。